

事務事業マネジメントシート（21年度実績と22年度計画）

22年度予算確定後 平成 22 年 3 月 26 日 作成
21年度決算把握後 平成 22 年 月 日 作成

事務事業名		スクールバス購入事業				☐ マニフェスト 関連 ☒ 全庁横断 課題関連 ☐ 集中改革 プラン関連			
総合 計画 体系	政 策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	中島 正剛
	施 策	19	義務教育の充実			所属課	学校教育課	担当者名	古荘 一也
	基本事業	65	施設の整備			所属班	総務施設班	(内線)	2222
予算科目		会計	款	項	目	事業連番	法令根拠		成果優先度評価結果
		1	10	1	2	11370			コスト削減優先度評価結果
終了、開始年度		☒ 21年度で終了 ☐ 22年度から開始		事業期間		☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返(開始年度 年度) ☒ 期間限定複数年度 (20 ～ 21 年度)			

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】	遠隔地児童(合志小学校校区の一部)の登下校での送迎、及び学校関係行事での市内児童生徒の移送のために使用する耐用年数を経過したスクールバスを更新する事業である。
(開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	合併前、合志小学校の統廃合により、昭和44年から遠隔地児童生徒を対象に運行してきたスクールバスについて、平成6年の更新(導入)以来使用してきたバスの耐用年数が過ぎ、老朽化がすすんでいるため、平成20年度国の緊急経済対策を活用して購入による更新を行うこととなった。 スクールバスを利用する児童が減少傾向にある。H21年度100人←H16年度141人
【業務の流れ】	バス更新方法の比較検討、予算計上事務、バス購入及び既存バス処分資料収集事務、発注事務、納車までの施行監理、バス納車
【主な予算費目】	備品購入費
【意見や要望】	特になし
関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動) 21年度実績(21年度に行った主な活動)(DO)

繰越報告事務(19,000千円)
納車までの施行監理(スクールバス用への改造、外装処理状況)
納車(既存バスの処分)

22年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)

④活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標

⇒ ア バスの更新に要する経費

(単位)

千円

イ

(単位)

② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等

合志小学校校区の遠隔地児童及び市内児童生徒

⑤対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標

(単位)

⇒ ア 遠隔地の児童生徒数

人

⇒ イ 市内の児童生徒数

人

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

安心・安全・確実に通学でき、学校行事での移送ができる。

⑥成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標

(単位)

⇒ ア 更新されたバスの台数

台

イ

*⑥成果指標設定の理由と平成22年度目標値設定の根拠

(2) 各指標・総事業費 の推移		単位	19年度	20年度	21年度	21年度	22年度	23年度	24年度		
			実績(決算)	実績(決算)	目標(当初予算)	実績(決算)	目標(当初予算)	予定	見込		
④ 活動指標	ア	千円		19000	19000	17595					
	イ										
⑤ 対象指標	ア	人		104	104	104					
	イ	人		5172	5172	5172					
⑥ 成果指標	ア	台		0	1	1					
	イ										
投 入 量	事 業 費	財 源 内 訳	国庫支出金	千円		0	17,000	17,000			
			都道府県支出金	千円		0	0	0			
			地方債	千円		0	0	0			
			その他	千円		0	2,000	595			
			繰入金	千円		0	0	0			
			一般財源	千円		0	0	0			
	(A) 事業費計		千円	0	0	19,000	17,595	0	0	0	
	(A)のうち指定経費		千円								
	(A)のうち時間外、特勤		千円								
	人 件 費	正規職員従事人数		人		3	3	3			
		延べ業務時間		時間		80	80	80			
		(B)人件費計		千円	0	320	318	318	0	0	0
トータルコスト(A)+(B)			千円	0	320	19,318	17,913	0	0	0	

総トータルコスト		
全体計画		
20	21	年度
		17,000
		2,000
		19,000
		5
		140
		557
		19,557

(期間限定複数年度のみ記載)

総トータルコスト
全体計画

20 ～ 21 年度

17,000

2,000

19,000

5

140

557

19,557

(期間限定複数年度のみ記載)

合志市

事務事業名	スクールバス購入事業	所属部	教育委員会事務局教育 部	所属課	学校教育課
-------	------------	-----	-----------------	-----	-------

2 評価の部 (SEE)
*原則は21年度の後評価、ただし複数年度事業は21年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①21年度目標達成度評価 事務事業の前年度実績は前年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【理由】
	②22年度目標達成見込み 事務事業の本年度目標値に対して本年度の見込みはついているか？	☒ 目標達成見込みあり ⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 旧来のバスが更新されることで、故障率の出現が低くなり、また、排ガスのクリーンさ、燃費の向上が見込まれ、向上の余地がある。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 循環バス試行運行事業との連携可能性 路線バスとして運行補助を行っている市内循環バス路線のうち、児童通学に力点を置いた運行路線があり、連携が考えられるが、現時点での統廃合・連携は困難であり、今後検討が必要である。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 発注段階で検討を重ね、購入契約を締結しており、これ以上の削減余地はない
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託できないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 バス購入及び更新に係る人員は、最少の必要人員ですすめており、これ以上の削減余地はない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 合志小学校区の遠隔地児童が主に使用するが、学校行事での市内児童生徒の移送にもフル回転で活用されており公平・公正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事務事業のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行出来ないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 遠隔地児童を対象としているので適正である。

3 評価結果の総括(SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

車両が新しくなったことから、燃費の向上し、排ガスがクリーンになり環境に優しくなった。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)

☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)

☒ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(2) 改革・改善による期待成果
(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			
低下				

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

市内循環バス路線のうち、児童通学に力点を置いた運行路線があり、連携が考えられるが、現時点での統廃合・連携は困難であり、今後検討が必要である。